

# 大里 普及だより

〈〈認定農業者向け情報誌〉〉

発行 埼玉県大里農林振興センター 農業支援部  
熊谷市久保島 1373-1  
TEL:048-526-2210 FAX:048-526-2494  
URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k15/>  
E-mail [k262210@pref.saitama.lg.jp](mailto:k262210@pref.saitama.lg.jp)

14号



埼玉県のマスコット  
「コバタン」

## 埼玉県大里農林振興センター 所長あいさつ

大里地域は、農業産出額504億円（平成18年）と埼玉県全体の25%を占める県下有数の農業地域です。



その中で約900の経営体が認定農業者となり、地域の担い手として活躍されています。

今年2月に関東甲信越を襲った大雪は、想定を大幅に超え、熊谷気象台で62cmという記録的な積雪量となりました。この大雪により、多くの農作物や農業用ハウスなど、本県農業に広域かつ甚大な被害を及ぼし、その被害額は県全体で229億円、管内では96億円にも上っております。

私は、4月に着任した当初、この大雪被害からの復興が第一の課題と引き継ぎ、再建に向け、市、JAなどと連携し、強力に対策を進めて参りました。お陰様で、徐々にハウスの撤去や再建が進んで参りましたが、未だ倒壊したままのハウスもまだまだ多く残されています。資材不足、人手不足と多くの課題が聞かれるところですが、知恵を出し合ってこれらの課題を解決し、被災された皆様が、一日でも早く営農を再開でき、意欲を持って農業経営が継続できるよう尽力して参ります。

県農林部では、「農林業が埼玉を元気にする。」をキャッチコピーに各種施策に取り組んでおります。大里普及だよりは、認定農業者の皆様への情報提供の場として発行しております。

この大里普及だよりで、皆様の農業経営を元気にし、経営発展の一助となる情報をお届け出来れば幸いです。

大里農林振興センター所長 高橋利雄

## 農業法人紹介シリーズ⑥ 「株式会社 一心園」

### 1 会社の概要〈深谷市針ヶ谷（旧岡部町）〉

平成24年9月に社長である山崎氏が個人経営を法人化しました。社員20人、畑10haでレタス、ブロッコリー、スイートコーン、なす等の露地野菜を栽培し、（農）埼玉産直センターに出荷しています。

### 2 「人を生かす経営、それが全て」

〈山崎素治社長に経営理念を伺いました〉

2月の大雪で露地トンネル3haが壊れ、社員総出で1か月かけてトンネル全てを設置し直しました。自然の驚異を感じて黙々と作業する中で、復興を成し遂げた喜びで社員の連帯感が高まりました。「自然が人を育てる。農業は人が育つには適した仕事」と語ります。

「人は縁があってここへ来た。社員が夢を持てるようにしたい」。社員はハローワークで募集し、採用したほとんどの人が定着しています。

経営を野球監督に例え、「選手が監督を胴上げしたい、と思えるチームにすることが監督の仕事。経営者も同じ」と語ります。昨年Uターン就農した長男の専務、課長1人、係長2人を含む社員20人とともに、社員のために儲かる農業を目指しています。

（「雇用するなら右腕になってくれるような人を雇いたい」と誰しも思います。株式会社一心園では、人を生かすことによりそれを実現している、と感じました。☺）



社員とともに、後列右端が山崎社長

# 経営に役立つ農業制度資金のご紹介

「農業制度資金」とは農業者の皆さんの生産活動に必要な資金のなかで県や市町村が直接融資したり利子補給や助成を行う資金です。ここでは、認定農業者の皆さんが活用できる主な農業制度資金をご紹介します。

## 農業近代化資金

農業を営む方や農業に関わる団体が、施設や農機具の取得、家畜の購入、果樹植栽、小規模な土地改良などを行うときに借りることができる一般的な資金です。

- 1 融資機関 県内各JAなど
- 2 主な使い道
  - ・ 農業用施設（ハウス、集出荷加工施設など）の建設、購入、改良、復旧
  - ・ 農業用機械（トラクタ、コンバインなど）の購入
  - ・ 果樹、茶の植栽又は育成
  - ・ 小規模（事業費1,800万円まで）な農地の改良、造成、復旧

### 3 貸付限度額 ※1 特別農業者は2億円

個人※1	農業参入法人	法人
1,800万円	1億5千万円	2億円

- 4 償還期間 ※2 用途により異なります。
  - ・ 認定農業者 15年以内（うち据置7年以内）
  - ・ その他 15年以内（うち据置3年以内）
- 5 認定農業者に係る特例利率と融資率

認定農業者は、農業制度資金の通算貸付残高が、個人1,800万円、法人3,600万円までは、農林水産長期金融協会からの利子助成によりその他の担い手より低利で融資を受けられます。

認定農業者は、事業費に対し100%まで借入可能です（通常は80%）。この特例は貸付額が個人1,800万円、法人3,600万円まで適用されます。

ただし、貸付額が上記を超える場合には、その超えた部分は通常の融資率(80%)となります。

## 農業経営基盤強化資金(スパー-L資金)、経営体育成強化資金

償還期間が長い、借入金額が大きい、農地を取得する場合に利用できる長期資金です。

- 1 融資機関 日本政策金融公庫、県内各JA
- 2 主な使い道
  - ・ 農地の購入、農地の改良、復旧
  - ・ 農業用施設（農作業場、ハウス、加工施設など）の建設、購入
  - ・ 農業用機械（トラクタ、コンバインなど）の購入

- ・ 果樹、茶の植栽又は育成
- ・ 家畜の導入又は育成

### 3 貸付限度額

資金名	対象者	貸付限度額	
		個人	法人
農業経営基盤強化資金	認定農業者	3億円	10億円
経営体育成強化資金	その他担い手	1億5千万円	5億円

### 4 償還期間

- ・ 農業経営基盤強化資金  
25年以内（うち据置10年以内）
- ・ 経営体育成強化資金  
25年以内（うち据置3年以内）

### 5 金利負担軽減措置

農業経営基盤強化資金が「実質無利子化となる金利負担軽減措置」は、平成26年度も実施。

対象者は、人・農地プランに中心的経営体として位置付けられた方、農地中間管理機構から農地を借り受けた方です。

## 農業改良資金

技術・作物・加工分野の

新しい取組（農業改良措置）を行う場合に利用できる全期間無利子の資金です。

### 1 貸付対象者

ITファーマー、農商工連携促進法及び6次産業化法の認定を受けた農業者等

### 2 融資機関 日本政策金融公庫、県内各JA、銀行、信用金庫

### 3 主な使い道

農業改良措置に関する計画の実施に必要な資金で、以下のいずれかの取組に関するもの。

- ・ 新たな農業部門（従来扱っていない作目、品種への進出）、新たな加工事業の開始
- ・ 農畜産物又はその加工品の新たな生産方式の導入（新たな技術・取組を導入して品質・収量の向上やコスト・労働力の削減を目指す場合）や新たな販売方式の導入

### 4 付限度額 5,000万円(法人1億5千万円)

### 5 償還期間 10年以内(うち据置3年以内)

※3 一部12年以内（うち据置5年以内）の特例あり

## 平成26年度に取り組む展示ほ・実証ほの紹介

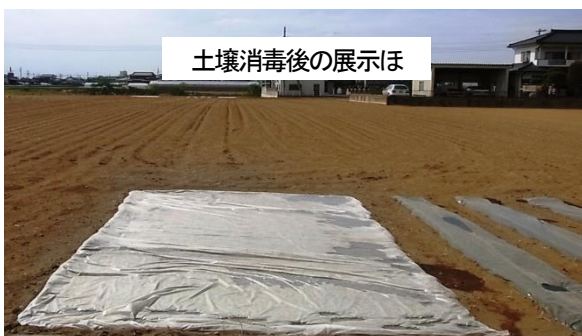
大里農林振興センターでは、野菜産地における課題解決に向け、農林総合研究センター、JA、生産者と一緒に、今年度、下記のような展示ほ等を設置します。単年度では解決できない課題もありますが、関係機関と連携して課題解決に取り組んでいきます。関心のある方は、農林振興センターまでお問い合わせください。

### 1 ねぎの「黒腐菌核病」対策

黒腐菌核病は、ねぎの主要病害の1つで、今後の発生拡大が懸念されています。近年、発生時期が広がる（11～7月収穫のねぎで発生）とともに、大幅な減収となるほ場も散見されています。

対策は、未発生ほ場では、苗や機械などによる病原菌の持ち込み防止、発生ほ場では、連作の防止、土壌消毒などによる病原菌の低減があります。

黒腐菌核病の発生低減のため、秋冬ねぎで薬剤（ディ・トラペックス油剤、ダゾメット粉粒剤）による土壌消毒と、定植時及び土寄せ時における薬剤処理による効果確認の展示ほを、深谷市人見地区に設置しました。



### 2 ブロccoliの細菌病対策

昨年の秋冬ブロッコリーでは、台風や多湿条件により細菌が原因の病害（アブラナ科野菜斑点細菌病、花蕾腐敗病、黒腐病、黒斑細菌病など）が多く発生しました。

対策として、①アブラナ科野菜の連作を避ける、②排水対策を行う、③定植時に黒腐病を対象とした薬剤（オリゼメート粒剤）の土壌混和を実施する、④降雨が続くことが予想される場合は、病徴発現前から銅剤等による予防散布を行う、などがあります。

細菌病の発生低減のため、「定植時のオリゼメート粒剤の土壌混和」と「花蕾の見え始め前後の銅剤散布」の効果を確認する展示ほを、深谷市榛沢地区に8月から設置する予定です。

（記載農業は平成26年6月1日現在の登録状況に基づいています。）

### 3 露地なすの天敵温存型害虫防除体系の確立

過去に県内で技術確立された「露地なすの天敵温存型防除」を、近年の気象と病害虫の発生状況に即した技術に見直します。

展示ほは、深谷市八基地区に設置し、ソルゴーの防風効果、バンカー作物としての効果確認、使用薬剤の見直し、病害虫と土着天敵の発生状況等を調査し、農薬の使用回数の低減などの環境にやさしい防除技術の確立を目指します。



### 4 獣害対策

当管内では、アライグマ等による農作物被害が年々増加しています。このため、農林総合研究センターが、開発した獣害防止電気柵「楽落（らくらく）くん」の展示ほを熊谷市須賀広地区と上新田地区のスイートコーンほ場に7月初旬まで設置し、獣害防止効果を確認しています。

「楽落くん」は、既存の防獣ネットを併用する電気柵より、「管理作業への支障が少なく、低コストで、設置が簡単なこと」が特徴です。



（技術普及担当 野菜担当）

## 水稻 今後の管理について



6月25日気象庁発表による向こう3か月の予報において、7～9月の気温は「平年並」が40%、「低い」、「高い」がそれぞれ30%の確率となっています。気象情報には十分注意し、今後の管理をしっかりと行いましょう。

### 1 水管理

- 高温障害軽減には根の活性維持が重要です。
- 農業用水は水利権により取水量、取水時期ともに制約があることから、かけ流しは行わず、有効に利用にします。

#### (1) 中干し

無効分げつの抑制や健全な根の維持のため中干しを行いましょ。

田植え後30日頃を目安に、有効茎数確保後、田面に小ひびが入る程度、歩いて足跡がつく程度を目安に実施します。

その後は、根の活性を保つため、間断かん水します。

#### (2) 出穂期前後・登熟期間

穂肥施用後は、湛水状態を保ち、出穂期前後約7日間は、深水管理を実施します。穂揃い後は、間断かん水とします。

なお、気温が高く、高温障害が懸念される時の入水は、田面温度を下げるために、可能であれば、夕方以降に行いましょう。

#### (3) 落水

早期落水は、外観品質の低下や粒張不良など著しい悪影響を与えます。最低でも出穂後30日間は、土壤水分を保ち、完全に落水する時期は、収穫の約10日前とします。

### 2 穂肥

- 葉色の低下は高温障害の危険信号です。
- 高温障害軽減のため、ほ場をよく観察し、葉色の低下が見られる場合は、表1を参考に穂肥を実施します。

肥料切れで葉色が極端に低下してから穂肥を実施すると葉色が戻るまで時間がかかります。これにより、稲体の消耗が激しくなり、外観品質の低下を招きます。

適期に実施した穂肥により食味を損なうことはありませんので、生育診断（葉色等）に基づいた穂肥を実施しましょう。

表1 主な品種の施肥例

品種名	移植期	基肥量 窒素成分 /10a	穂肥	
			施用時期	施用量 窒素成分 /10a
キヌヒカリ	6月23日	5kg	7月29日頃	2kg
彩のきずな	6月23日	5kg	7月23日頃	2kg
彩のかがやき	6月23日	5kg	7月30日頃	2kg

（穂肥の施用時期は農林総合研究センター水田農業研究所の出穂期平年値より算出しました。）

### 3 カメムシ類の防除

- カメムシ類による斑点米に注意しましょう

昨年、カメムシ類の発生が多かったことから、今年も斑点米の発生に注意しましょう。

#### (1) 水田周辺の除草時期

出穂期前後の除草は斑点米カメムシ類の水田への移動を助長するため、出穂2週間前以降は行わないようにします。

#### (2) 薬剤の防除時期

出穂期～乳熟期に防除します。

### 4 適期収穫

- 高温時は登熟が進みます。
- 刈遅れ等により胴割れが発生しやすくなります。このため、気象予報を参考に適期収穫に努めましょう。

## 花き生産をめぐる最近の話題

### 若手花き生産者の取組について

切花や鉢物など花き生産の盛んな大里地域では、若手の生産者組織が特徴ある活動を展開しています。

その中でも、深谷市の鉢物生産者で構成される「花のプリンスクラブ」と、切り花生産者で構成される「ふかや農協藤沢支店切花部会青年部」の活動を紹介します。



kobaton

#### 1 花のプリンスクラブ（部長 沼尻雅俊 氏）

花のプリンスクラブは、深谷市や寄居町で鉢物を生産している13人の若手生産者で構成されている組織です。

小中学生を対象として、小さいうちから花や緑に親しんでもらい、将来にわたって関心を深めてもらうことを目的に、毎年「キッズガーデニング教室」を開催しています。今年で6年目を迎え、これまでに約2,600人の開催実績があります。

こうした実績を踏まえて、昨年度からは、彩の国みどりの基金の助成を受けるなど、多くの方から活動に対して高い評価を得ています。

今年度も深谷市内の小中学校やイベントに出展を予定しています。

6月12日に、深谷市校長会においてこの活動に関するプレゼンテーション活動を行い、今年度の活動をスタートしました。

#### 2 ふかや農協藤沢支店切花部会青年部

（部長 島田勇樹 氏）

ふかや農協藤沢支店切花部会青年部は、深谷市内で切花生産をしている16人の若手生産者で構成されている組織です。

今年度は、昨年に引き続き、若手生産者の経営能力の向上を目的に、経理や労務などの勉強会の開催などのプログラムを計画しています。

6月15日には、消費者へのアプローチ手法を学ぶことを目的に、埼玉県庁で開催された朝市に初めて参加して、自分たちが栽培したLA・OTゆりや小ぎくなどの切花について販促活動を行いました。

当日は、今年2月の大雪被害とその後の復旧状況についてのパネル展示を行いました。また、ゆりのプロモーション活動に取り組みリリーエンジェルの参加もあり、用意した切り花は完売するほど大盛況でした。

今後もあらゆる機会を捉え、お客様のニーズを把握し、積極的に販促活動を行いたいとのことでした。



深谷市校長会でのプレゼンテーションの様子



県庁朝市での販売促進活動

2月の大雪で施設倒壊など大きな被害を受けた深谷地区では、産地の一日も早い復興に向けて若手生産者が中心となって、消費者などへ産地のPRに関する活動を行っています。

復興に向けた取組への支援につきまして応援をよろしくお願いします。

（農業革新担当）

## 暑熱対策・自給飼料分析

### 1 暑熱対策について

今年も暑い夏がやってきます。暑熱により、採食量や受胎率の低下等が引き起こされ、家畜の生産性が損われることを防ぐためには、家畜が健康で快適に過ごせる環境づくりが大切です。

#### (1) 畜舎環境面からの対策

##### ○畜舎内から畜舎温度を下げる

畜舎外から新鮮な空気を取り入れ、畜舎内に過剰な熱や湿度、ガス（炭酸ガス、アンモニアガス）がこもることがないように換気しましょう。

畜体に風があたると体感温度が下がります。風速1m/秒で体感温度は牛で6℃、豚で4℃、鶏3℃くらい低下するといわれています。

散水を利用する時には換気に気をつけ、畜舎内の温度が上がりすぎないようにしましょう。換気ができない場合は、湿度が上昇し、逆に体感温度を上げてしまいます。

##### ○畜舎外からの熱の侵入を防ぐ

輻射熱を低減することで畜舎温度の上昇を抑える工夫をしましょう。

屋根・壁・床への断熱材の設置や、屋根への石灰や断熱塗料の塗布、屋根にスプリンクラーを設置しての散水、樹木や遮光ネット等の設置などの方法があります。それぞれの畜舎に合った対策を行ってください。

直射日光を遮るものを設置すると有効ですが、通風を妨げないようにしてください。

#### (2) 飼養管理面からの対策

##### ○飼料給与等の工夫

家畜がきれいな冷たい水を飲みたい時に充分飲めるようにしましょう。給水器を掃除し、給水量を点検してください。

飼槽はこまめに掃除し、変敗した飼料が残らないようにしましょう。変敗した飼料は採食量を低下させるとともに、下痢などの体調不良の原因にもなります。

飼料の給与は涼しい時間帯に回数を分けて行うと、昼間の暑い時間帯の給与よりも体内の熱生産を抑えることができます。

各家畜に適したビタミン、ミネラルを補給しましょう。飲水量の増加や、暑熱ストレスによるビタミン等の不足を補えます。

##### ○飼養管理の工夫

密飼いは避けましょう。適正な飼養密度は暑さとともに家畜のストレスも軽減します。

こまめな除糞も行いましょう。糞尿は熱源、湿度源となります。衛生害虫対策を行い、家畜のストレスを和らげることも重要です。

牛の場合は、毛刈りの実施もあります。

以上のような対策を組み合わせると効果的です。早めの措置で、暑い夏を乗り切りましょう。

### 2 自給飼料分析の申込について

県畜産安全課では、畜産農家のほ場や河川敷等で生産された、自給粗飼料の成分分析を無料にて実施しています。

#### (1) 受付時期（予定）

- ① 7月 7～9日      ② 9月 8～10日
- ③ 11月 10～12日      ④ 1月 19～21日
- ⑤ 2月 17～19日

#### (2) 分析項目

成分分析（乾物、CP、CF、DCP、TDN、ADF、NDF）、硝酸態窒素

#### (3) 採材方法

採材は、担当者が現地にて直接行います。採材量は、サイレージで1kg、乾草で500g程度です。

#### (4) 結果通知

結果は約2週間程度で、本人に通知します。  
硝酸態窒素が著しく基準を超えている場合は、速報します。

#### (5) その他

- ① 購入粗飼料の分析は、受け付けません。
- ② 硝酸態窒素の簡易検査は随時、実施します。
- ③ 依頼・相談は、農業革新支援担当まで。

住所：熊谷市須賀広784  
電話：048-536-6034



（農業革新支援担当）

## 受賞おめでとうございます！

### 1 第23回花の国づくり共励会 花き技術・経営 コンクール 農林水産大臣賞受賞 フカヤスリーエフクラブ(深谷市)



表彰を受ける島田代表と関和氏

フカヤスリーエフクラブは、5人のゆり切り花生産者で構成する出荷組織です。新たな需

要を掘り起こすために、花の形など特徴ある品種の試験栽培や従来の花き経営から脱却した顧客ニーズを重視する企業の経営に取り組んでいます。特に、徹底したゆり切り花の計画生産や市場への情報開示など実需者重視の取組が、優良経営モデルとして高く評価されました。

### 2 第19回（平成25年度）環境保全型農業推進 コンクール 最優秀賞！

農事組合法人 埼玉産直センター(深谷市)

第19回環境保全型農業推進コンクールにおいて、埼玉産直センターが「最優秀賞」(農林水産省生産局長賞)を受賞しました。



2月に行われた表彰式の様子  
後列左から3番目が木村代表

これは、食品残さを利用した独自の堆肥生産・利用などの約40年にわたる持続可能な農業生産への取組が評価されたものです。会員220人の中には2月の大雪で被害を受けた生産者も数多くいますが、一日も早い復興に向けて頑張っています。

### 2 2014年DLGコンテストで3つの金賞を受賞 農事組合法人男衾食肉加工組合(寄居町)

店名“バルツバイン”で親しまれている、寄居町の男衾食肉加工組合が、ドイツ農業協会が主催する世界で最も歴史がある食品品質の品評会「DLGコンテスト」に3種類のソーセージ等を出品し、すべてが金賞を受賞するという快挙を成し遂げました！

受賞した製品を手掛けた坂本氏は、埼玉県農業大

学校を卒業後、ドイツで養豚やハム、ソーセージの製造技術を学び、意欲的な活動を展開しています。

本場ドイツも選んだ味を皆さまも是非ご賞味ください。



知事にも味わっていただきました!!

## 若い農業者組織紹介(シリーズ①) 熊谷4Hクラブ協議会

熊谷4Hクラブ協議会は、農業経営能力や農業技術の向上を目指して活動する、熊谷市内の青年農業者組織です。農業経営の課題解決に取り組むプロジェクト活動や、麦稈収集・販売、他の青年農業者や消費者との交流活動等に積極的に取り組んでいます。

今年、会員の手掛けるトマトジュースとニンジンジュースの商品分析に基づいたPR販売を行う計画です。

現会員は6人で、仲間達と一緒に和気あいあいと活動に取り組んでいます。今年も新たな仲間を募り、さらに活動の幅を広げたいと考えています。今後の活躍にご期待ください。



熊谷4Hクラブ協議会のメンバー

## 狙われています。あなたのトラクタ

農業機械の盗難が相次いで発生しています。当センター管内(熊谷市、深谷市、寄居町)では、平成26年1月～5月までに、トラクタ12台、フォークリフト1台、エンジンポンプ5台が盗難の被害にあっています。

農業機械に警報器、ハンドルロック等の盗難防止用品を装置するなど、対策を講じるとともに万が一盗難にあった場合には速やかに最寄りの警察署等に届け出るとともに、農協等の販売店に情報提供しましょう。